

1 趣旨・目的

本市の強みである農業を中心として、商工業や観光などと連携を強め、農産物や特産品など様々な地域資源を有効に利用し、農業の持続的発展や新たな商品の開発、観光の振興などを通じて、地域経済の活性化を図り、まち全体の活力を高めていくための取り組みの方向などを基本構想として取りまとめたものである。

2 目指す姿

まち全体の活性化を図るためには、本市の基幹産業である農業を中心に商工業や観光などの関連産業などが密接に連携することにより、地域内において産業活動が循環し、経済波及効果が高く地域の経済が総合的に発展する基盤を構築することが重要である。

本市には、宮島沼や日本一の直線道路をはじめ、農産物・特産品、自然、文化など様々な地域資源があり、これらの地域資源を最大限に活用し、農業・商業・工業など、様々な産業に相乗効果が具体的に発揮されるよう配慮するとともに、市民はもとより、本市を訪れる多くの方々に美唄の良さを幅広く周知し、「通過するまち」から「立ち寄ってみたいまち」にしていくことが求められている。

このため、農業、食を中心に産学官が連携を図り、市民も参画しながら様々な視点から「食にこだわったまちづくり」の取り組みを進め、魅力ある「美唄」を市内外に発信することが大事であり、この一環として「食の駅」を整備することが必要である。

3 食にこだわったまちづくりの取り組み

(1) 基本的な考え方

- ・ 地域の産業の強みである農業を生かし、商工業や観光などの関連産業の連携を図るとともに、学術試験研究機関（大学・公設試験研究機関）の指導・助言や共同研究などを通じて新たな食材の提供をはじめ、農産物加工品などの特産品の開発、商品化、販路拡大を着実に進めていくことが必要である。

- ・ また、食にこだわったまちづくりは、食の安全、安心に対する関心が高まっている中で、子供からお年寄りまで、すべての市民が生活の基本である「食」について、正しい知識と食を選択する能力を習得し、地産地消を積極的に推進することにより、生涯を通じて健やかな生活を送るとともに、地域に対する愛着を高め、豊かで潤いのある暮らしを実現するなど、市民の暮らしの安全・安心を高める上でも極めて重要である。

(2) 取り組みの基本方針

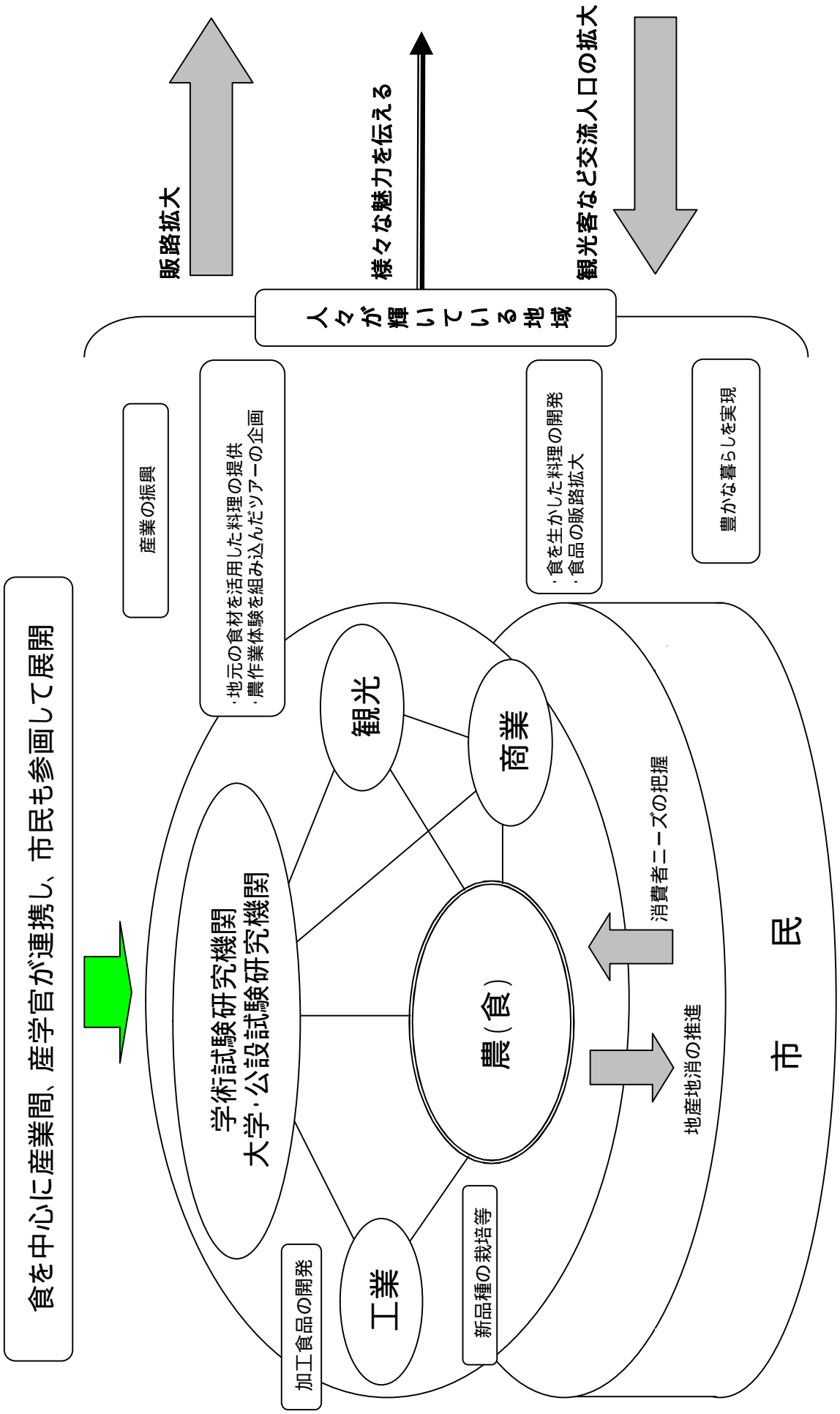
農業（食）を中心に、既存の特産品や加工品、様々な観光資源などの連携を強めていくことを基本とし、

- ・ 農業と商業の結びつきによる特産品の販路拡大
- ・ 農業と観光の結びつきによる魅力ある企画商品の開発
- ・ 企業と学術試験研究機関との連携によるハスカップや米粉などを活用した新しい商品づくり
- ・ 地産地消の推進や消費者ニーズを踏まえた新商品の開発
- ・ 観光客やアンテナショップを活用した新商品のマーケットリサーチ

などの視点をもとに、

食を核として、産業間、産学官の連携を促進するほか、市民（消費者）との結びつきを高め、地域経済の振興と市民生活の豊かさの向上を一体的に進めることにより、市民が地域に愛着や誇りを持ち、農産物などの地域の魅力を内外に発信することができるよう、地域資源を生かし、産業の内発的な発展を通じて特産品をはじめ、様々な地域資源のブランド化を促進していく。

「食にこだわったまちづくり」の基本コンセプト

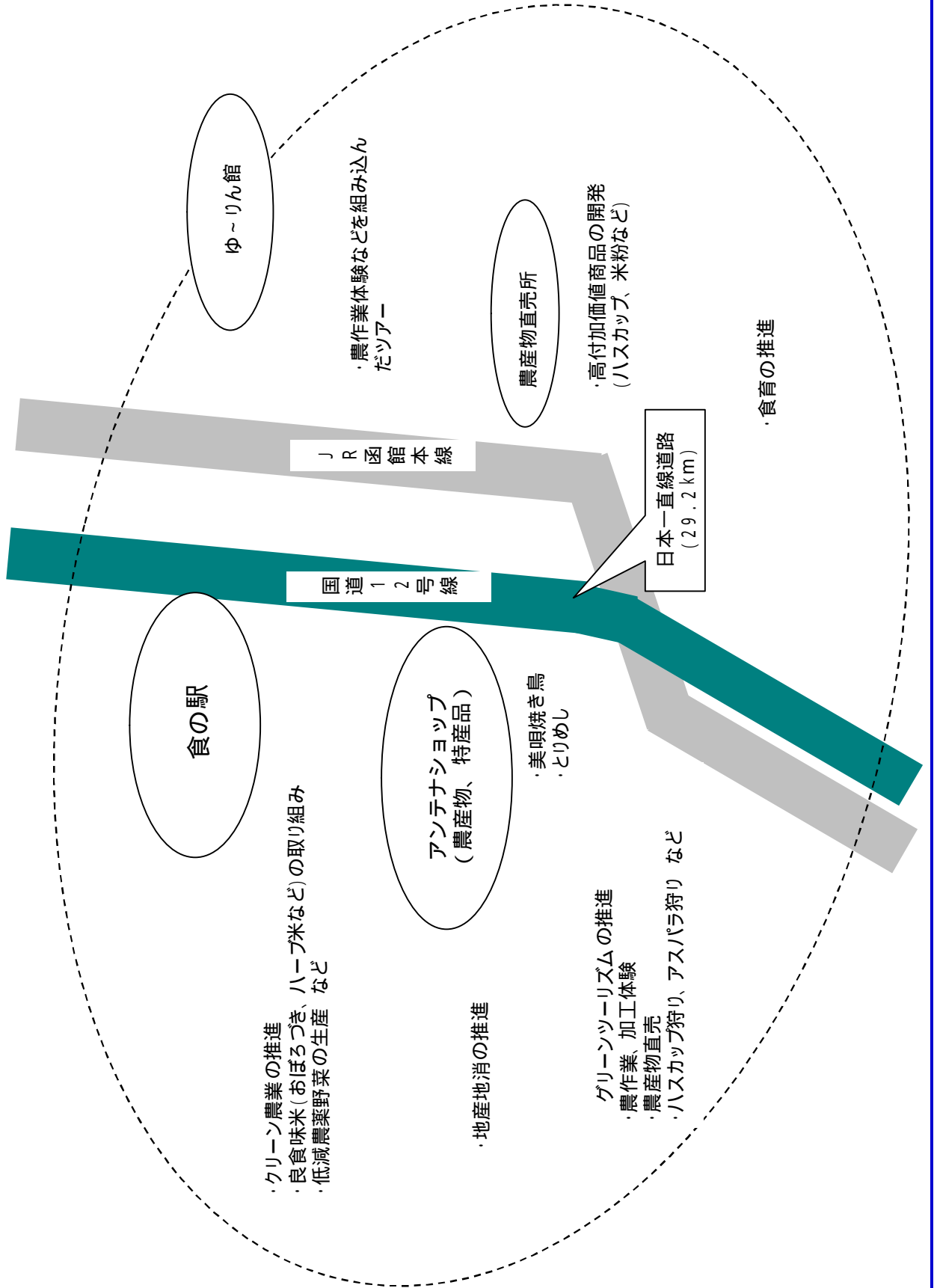


- ・ 食の駅については、駐車場やトイレ、道路観光情報などを提供する道の駅の基本機能と、食に特化したにぎわい拠点として整備することが必要と考えられるが、単に食の駅を整備することにとどまらず、全市的に食にこだわったまちづくりが様々な形で展開され、その展開の一つとして食の駅を位置づけていくことが重要である。

このため、既存の商店やスーパー、不特定多数の方が立ち寄る観光施設、直売所やアンテナショップ、更には農業者や農商工連携の取り組みの中で、食にこだわったまちづくりが先行して多様な形で進められ、その成果も踏まえ、食に関する複合拠点として、食の駅が民間による主体的な維持管理を基本とする施設として整備されていくことが望ましいと考える。

また、食の駅の整備後も、食に係る取り組みを他の施設や事業所においても継続的に行うことが効果的な地域経済の振興や市民生活の向上につながることから、食の駅や他の施設・事業所との連携、更には市民利用の促進という点に配慮しながら、食にこだわったまちづくりが全市を挙げて総合的に展開が図られるよう努めていくことが必要である。

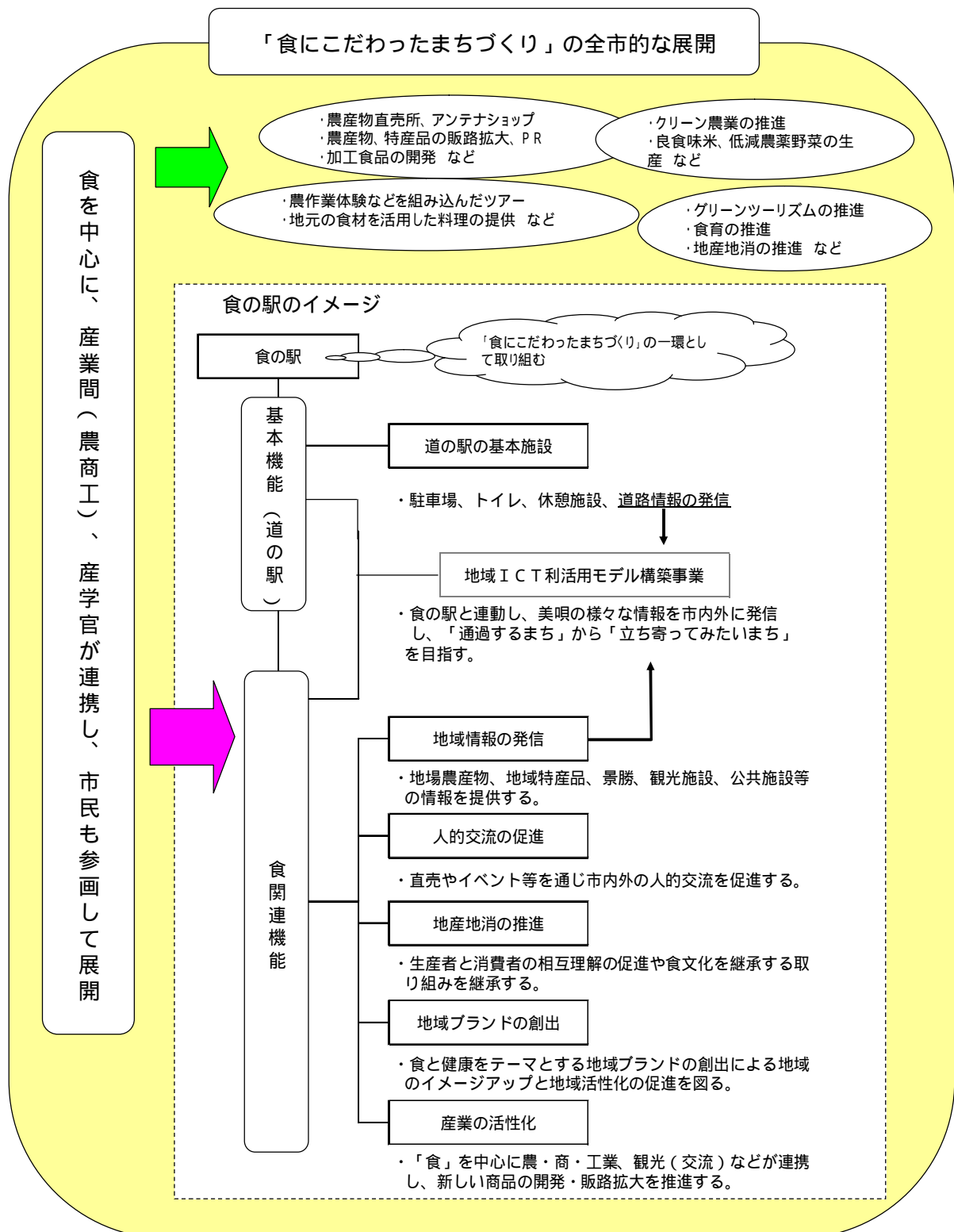
「食にこだわったまちづくり」の面的イメージ



4 「食の駅」の基本的な考え方

(1) 食の駅の基本的な機能

「食の駅」は、食を中心に産業間（農商工）、産学官の連携のもとに、市民も参画して、全市的に様々な形で展開する「食にこだわったまちづくり」の一環として取り組むこととし、「経済振興」「交流」を促進するため、美唄の様々な「地域情報を発信する、食を味わう、地域を学ぶ、自然に親しむ」ことができるような機能を備えることが必要と考えられる。



(2) 必要と考えられる施設

基本施設

「道の駅」を踏まえ次の施設を整備し、条件が整った場合には国土交通省に「道の駅」の登録申請をすることが必要と考えられる。

<主な予定施設>

- ・ 駐車場
- ・ トイレ
- ・ 休憩施設
- ・ 道路情報の発信施設

地域振興施設

道の駅に関する機能の整備に併せ、美唄市の地域振興につながる施設として「食」に関する施設の整備をおこない、「食の駅」として美唄の「地域資源」を様々な形で市内外に向けて情報発信するとともに、販売提供することが必要と考えられる。

<主な予定施設>

- ・ 飲食施設（食材供給施設）
- ・ 特産品
- ・ 軽食販売施設
- ・ 農産物直売所
- ・ 農産物加工施設
- ・ 情報発信施設
- ・ フリーサイト
- ・ 売店等

地域 ICT 利活用構築事業と連携

（道路管理者との連携事業）

- ・ 展望施設

地域 ICT 利活用構築事業について

地域 ICT 利活用事業とは、美唄市の地域資源である農業をはじめとする産業、観光、交流等に係る郷土情報を蓄積した「郷土情報データベース」（インターネットのポータルサイト「PiPa(ピパ)」）を構築し、このデータベースの活用により、本市の知名度、地域交流、業種交流、情報発信などの事業を展開し、「美唄ファン」を獲得することにより、魅力あるまちづくりの推進を図ることを目的に行っている事業です。この事業で開発した各システムの連携・活用により、相乗効果が期待されます。

【想定される連携・活用例】

ポータルサイト「PiPa(ピパ)」での美唄の農産物、特産品等のPRやネット販売管理システムの活用
農産物直販支援システム(ポストレジシステム)やトレーサビリティ(生産履歴登録・照会)システムの活用 など

5 食の駅の整備候補地

通過交通量が多い国道12号線沿いなど、市民や観光客など多くの人を訪れることが可能な場所に整備することが望ましい。

6 整備手法について

道の駅については、新設した場合、他市の事例を見ると土地取得費用を含め5億円程度となっている。（巻末資料参照）

一般的に建設費が高くなると出店ブース料が割高になり、出店がしにくくなることから、多くの関係者が低廉な料金で出店できるようにするためには、FM（ファシリティーマネジメント）の考え方にも留意し、既存の公共的施設を有効に活用していくことや、更には一定の集客が見込まれる施設に併設して整備する方法も有効と考えられる。（新設と既存施設の場合を比較すると表のとおり）

また、利用者の増加に併せ、段階的な整備を行うことも選択肢の一つとして考えられる。

FM（ファシリティーマネジメント）

施設とその環境を総括的な観点から最適に活用し、収益や公益に貢献することを目的として、企画、管理、活用を行う経営活動のこと。

区分	初期投資 (建設コスト)	出店料	管理運営費	利用しやすさ
新設	大	大	大	自由度 大
既存施設	小	小	小	既存施設の構造的な 制約を受ける

7 管理運営の方法

施設については、市と出店者・市民などからなる協議会を設け、利用者の意向（ニーズ）や、出店者の売上げ状況などを踏まえ、利便性が高く、魅力ある施設となるよう努めていくことが必要である。

8 財源

ハードの整備に当たっては、新設、既存施設を利用する場合のいずれであっても、道の地域政策総合補助金や、過疎債など償還時に交付税措置のある有利な起債の活用を検討し、維持管理や出店が容易となるよう工夫することが必要である。

9 構想の推進に向けて

(1) 事業者・学術試験研究機関に期待する役割

この構想に基づき、食にこだわったまちづくりを推進していくためには、農業者が商工業者や学術試験研究機関との連携の中で、安全で安心な農産物を生産・販売するほか、農産物等を活用した加工食品の開発などに積極的に取り組むことが必要である。

また、アンテナショップや物産展などに農産物や加工品を出品し販路の拡大を図るとともに、把握した消費者ニーズを踏まえ商品の改良や新製品の開発に結びつけていくことが必要である。

(2) 市民に期待する役割

食の安全・安心に対する関心が高まる中で、地場の農産物を活用した食育の推進、地産地消の推進はもとより、市民一人ひとりが地元食材の良さをPRするなど、食にこだわったまちづくりに参画していくことが必要である。

(3) 市としての対応方向

真に市民に親しまれ、外から来る人にとっても魅力ある食の駅としての施設とするためには、ポータルサイト・ピパ（地域ICT利活用モデル構築事業）による情報提供や食のフリーマーケットの実施状況、平成21年度から取り組むこととしているアンテナショップ、更には地元農産物を活用した付加価値の高い商品の開発などの成果を踏まえ、基本計画の策定に向けて、立地場所、整備・管理運営のあり方などの点について更に総合的に検討を深めていくことが必要である。

「食にこだわったまちづくり」の推進に向けた
事業者や学術試験研究機関、市民、市の役割

食にこだわった
まちづくり

産

事業者 zu 期待される役割
(農・商・工・観光)

- ・農業者等の取り組みとして
- ・農産物の生産 (クリーン農業の推進、良食味米の取り組み、低減農薬野菜の生産 など)
- ・農産物の販売
- ・農産物の加工
- ・アンテナショップの企画・運営
- ・農作業体験の受入などグリーンツーリズムの推進
- ・食育の推進
- ・地産地消の推進 など
- 商工業者 (観光含む) の取り組みとして
- ・加工食品の開発、製造
- ・食品の販売及び販路の拡大
- ・アンテナショップの企画・運営
- ・地元食材を使った料理の提供及び新たな料理メニューの開発
- ・加工食品のブランド化
- ・観光客受入、ツアー企画
- ・食育の推進
- ・地産地消の推進 など

官

市

- ・産業支援施策の展開
- ・関係機関、団体等のコーディネート
- ・担い手や人材の育成
- ・食育の推進
- ・地産地消の推進
- ・各種情報提供
- ・食の駅に係る基本計画の策定 など

学

学術試験研究機関 zu 期待される役割
(大学、公設試験研究機関等)

- ・新しい商品づくり支援として
- ・新品种開発、栽培技術の指導
- ・商品開発に関する情報提供
- ・食品加工技術指導、分析 など
- 地域活性化支援として
- ・交流促進事業の企画、提言
- ・人材育成のための研修、講演
- ・各種調査 など

市民

市民 zu 期待される役割
(個人、団体、地域)

- ・観光客受入、案内 (ボランティアなど)
- ・地元食材を活用したアイディア料理のレシピ提供
- ・市民運動としての気運の醸成
(様々なまちづくり活動への参画)
- ・積極的な利用、PR
- ・食育の推進
- ・地産地消の推進 など